



## 2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月8日

上場会社名 株式会社Ubicomホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 3937 URL <http://www.ubicom-hd.com/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)青木 正之  
 問合せ先責任者 (役職名)戦略企画本部長 (氏名)八田 真資 (TEL) 03(5803)7339  
 四半期報告書提出予定日 2019年8月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	947	16.1	168	95.5	169	84.4	111	116.1
2019年3月期第1四半期	816	11.2	86	199.0	91	144.4	51	292.0

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 112百万円(79.0%) 2019年3月期第1四半期 62百万円(453.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	9.75	9.33
2019年3月期第1四半期	4.60	4.27

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	3,258	1,746	53.6
2019年3月期	3,093	1,690	54.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 1,746百万円 2019年3月期 1,690百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,021	13.1	671	19.0	710	20.1	443	20.3	38.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	11,494,640株	2019年3月期	11,483,360株
2020年3月期1Q	91株	2019年3月期	54株
2020年3月期1Q	11,486,479株	2019年3月期1Q	11,261,575株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国や欧州各国における政治情勢の変動や金融政策動向、米中における貿易摩擦の激化懸念など、先行き不透明感が依然として残るものの、企業の生産活動の持ち直しによる企業収益や雇用・所得環境の改善、設備投資の増加等を背景として、引き続き緩やかな回復基調で推移しております。

当社の属する情報サービス産業におきましては、ビッグデータ、IoT、人工知能（AI）等の市場の拡大が引き続き見込まれる一方で、国内でこれらの開発を担う人材の不足が懸念されております。

このような状況の中、グローバル事業においては、主にフィリピンでのオフショア拠点を活用したITソリューション開発事業を展開しており、「ソフトウェアテストあるいは製造ラインの検査工程の自動化（Automation）」「ビッグデータと分析（Analytics）」「人工知能（AI）」等のコア技術を活かし、自動車、金融、医療、製造業および小売・サービス業等に向けコアソリューションを提案しております。さらに、積極的な新規採用、即戦力としての中途採用に加え、AI・データサイエンティスト等の高度人材投資を実施し、更なる事業拡大に向けた取組みに邁進しております。

メディカル事業においては、医療機関向けレセプト点検ソフトウェア『Mighty』シリーズのシェア拡大に向けた取組みを継続しております。2018年10月に発売を開始した「MightyChecker®EX」の販売も好調に推移し、レセプト点検ソフト「MightyChecker®」シリーズ、オーダーリングチェックソフト「Mighty QUBE®」の売上は、引き続き堅調に推移し、ストック型ビジネスとして安定した収益源を確保しており、さらに、クラウドコンピューティングを活用したレセプト点検およびデータ分析エンジンを構築することにより、事業ポートフォリオの構成を変革したことによる高収益モデルの確立を目指してまいります。

また、当社の事業戦略のスローガンの1つである「協業企業様との投資を介したWin-Winインベストメントモデル」の実現に向けた投資活動も引き続き、積極的に展開しており、今後も検討・交渉している国内外における複数の協業案件の早期実現および新たな事業ピラーの構築を目指し、継続的な成長戦略を推進してまいります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高947,372千円（前年同四半期16.1%増）、営業利益168,770千円（前年同四半期95.5%増）、経常利益169,034千円（前年同四半期84.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は111,941千円（前年同四半期116.1%増）となりました。

セグメントごとの経営成績を示しますと、次のとおりであります。

#### a. グローバル事業

##### ・グローバル部門

グローバル部門においては、フィリピンおよび日本における既存のピラー顧客からの堅調な受注の増加と、大手コンピューターゲーム開発・製造会社や大手商社などの新規顧客の増加が継続していることに加え、ソフトウェアテストあるいは製造ラインの検査工程の自動化や分析等の当社コア技術を搭載した独自エンジンをアセット化し、それらソリューションの横串的展開を図ってまいりました。さらには、自動車産業や小売サービス業等において、業界を代表する大手クライアントを中心に新規顧客を獲得、自動化やモバイル&クラウド等のコア技術を活用した、収益性の高い案件受注が引き続き大きく伸長しております。中国においては、既存顧客との関係強化による受注は拡大しており、コア技術を活かしたソリューション提案を含めた新規案件獲得のための営業活動を積極的に進めております。米国においては、今後の売上拡大を目指した積極的な営業活動を継続し、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的な連結業績および企業価値向上に取り組んでおります。

##### ・エンタープライズソリューション部門

エンタープライズソリューション部門においては、金融セクターを中心とした既存案件の堅調さに加え、公共インフラセクター等の案件も順調に拡大しており、当社グループの成長戦略に沿った取り組みを積極的に実施しております。

また、いずれの部門においても、案件の増加および新規ソリューション開発に対応すべく、優秀な人材の積極的な採用活動を引き続き重点的に行っております。

以上の状況による売上高の伸長に加え、人材リソースのプラットフォーム化による効率的な運用による、稼働率向上による機会損失の回避、およびフィリピン・ペソの為替レートが引き続き円高基調で推移しコスト面で有利に働いたことが、増大する開発需要に対応するための人員強化に関する支出の増加をこなし、セグメント利益は計画を上回る水準で推移しております。

この結果、グローバル事業の売上高は628,730千円（前年同四半期22.4%増）、セグメント利益は134,270千円（前年同四半期145.3%増）となりました。

#### b. メディカル事業

メディカル事業においては、子会社である株式会社エーアイエスの主力製品であるレセプト点検ソフト「MightyChecker®」やオーダーリングチェックソフト「Mighty QUBE®」の導入医療機関が順調に増加しております。また、さらなる成長を目指し、2018年10月に次世代レセプトチェックシステム「MightyChecker®EX」の市場投入を実施し、大手グループ病院を含む多数の引き合いをいただいております。この度、複数の売上トップクラスの医療グループ内病院にて新たに導入が決定するなど、今後は大手医療グループ内における横展開含め、更なる拡販を図るべく取り組んでまいります。このように、医療の効率化や病院経営の改善ニーズ等を背景に、レセプト点検ソフトウェア市場におけるリーディングカンパニーとして、サブスクリプションモデルによる盤石な収益基盤が構築されたことに伴う売上の増加が、開発や人員強化などの戦略的投資に伴う支出の増加をこなし、セグメント利益は計画を上回る水準で推移しております。

利益面につきましては、安定的な高収益構造の確立と、プロジェクト毎の徹底した収益管理及び継続的なコスト削減等への取組みにより、売上高セグメント利益が4割を超え、収益性が大幅に改善しております。

この結果、メディカル事業の売上高は318,641千円（前年同四半期5.3%増）、セグメント利益は136,936千円（前年同四半期21.8%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は2,581,307千円となり、前連結会計年度末に比べ48,949千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が24,648千円、仕掛品が21,413千円増加したことによるものであります。固定資産は676,885千円となり、前連結会計年度末に比べ115,680千円増加いたしました。これは、投資その他の資産が9,197千円減少したものの、有形固定資産が1,453千円、無形固定資産が123,424千円増加したことによるものであります。

#### (負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,249,413千円となり、前連結会計年度末に比べ38,659千円増加いたしました。これは主に、未払法人税等が12,039千円、賞与引当金が12,134千円、流動負債のその他に含まれる未払金および預り金がそれぞれ46,295千円、20,230千円減少したものの、リース債務が54,115千円、前受金が69,826千円増加したことによるものであります。固定負債は261,914千円となり、前連結会計年度末に比べ69,472千円増加しました。これは主に、長期借入金が4,551千円、退職給付に係る負債が13,648千円減少したものの、リース債務が75,629千円、固定負債のその他に含まれる繰延税金負債が12,023千円増加したことによるものであります。

#### (純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は1,746,865千円となり、前連結会計年度末に比べ56,498千円増加いたしました。これは主に、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金が1,410千円、配当金の支払が57,416千円あったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益111,941千円の計上による利益剰余金が54,525千円増加したことによるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年5月15日の「2019年3月期 決算短信」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,637,245	1,661,893
受取手形及び売掛金	553,996	555,842
仕掛品	21,043	42,456
その他	323,802	324,608
貸倒引当金	△3,729	△3,493
流動資産合計	2,532,358	2,581,307
固定資産		
有形固定資産	72,474	73,928
無形固定資産		
ソフトウェア	79,439	73,706
使用権資産	—	129,157
無形固定資産合計	79,439	202,864
投資その他の資産	409,289	400,092
固定資産合計	561,204	676,885
資産合計	3,093,562	3,258,193

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	39,139	44,057
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	20,848	18,888
リース債務	—	54,115
未払法人税等	82,722	70,683
前受金	645,766	715,592
賞与引当金	46,838	34,704
その他	275,438	211,372
流動負債合計	1,210,754	1,249,413
固定負債		
長期借入金	15,061	10,510
リース債務	—	75,629
退職給付に係る負債	75,546	61,897
資産除去債務	7,284	7,303
その他	94,549	106,573
固定負債合計	192,441	261,914
負債合計	1,403,195	1,511,327
純資産の部		
株主資本		
資本金	724,353	725,058
資本剰余金	628,969	629,674
利益剰余金	477,509	532,034
自己株式	△54	△106
株主資本合計	1,830,777	1,886,659
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△118,054	△116,657
退職給付に係る調整累計額	△22,622	△23,404
その他の包括利益累計額合計	△140,677	△140,061
新株予約権	267	267
純資産合計	1,690,366	1,746,865
負債純資産合計	3,093,562	3,258,193

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	816,326	947,372
売上原価	482,059	510,709
売上総利益	334,266	436,663
販売費及び一般管理費	247,926	267,892
営業利益	86,340	168,770
営業外収益		
受取利息	230	100
持分法による投資利益	3,862	2,686
保険解約返戻金	426	3,266
その他	5,615	712
営業外収益合計	10,135	6,766
営業外費用		
支払利息	213	934
リース支払利息	—	2,872
為替差損	4,454	2,594
その他	140	100
営業外費用合計	4,808	6,502
経常利益	91,666	169,034
税金等調整前四半期純利益	91,666	169,034
法人税等	39,864	57,093
四半期純利益	51,802	111,941
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	51,802	111,941



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	51,802	111,941
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	10,143	1,397
退職給付に係る調整額	941	△781
その他の包括利益合計	11,084	615
四半期包括利益	62,886	112,557
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	62,886	112,557
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

当社グループの一部の海外連結子会社は、当第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。

IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、累積的影響を適用開始日に認識する方法を適用しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の四半期連結貸借対照表上、使用権資産として129,157千円が計上され、流動負債および固定負債のリース債務としてそれぞれ54,115千円、75,629千円計上しております。なお、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	グローバル 事業	メディカル 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	513,733	302,592	816,326	816,326	—	816,326
セグメント間の内部 売上高又は振替高	11,554	1,161	12,715	12,715	△12,715	—
計	525,288	303,753	829,042	829,042	△12,715	816,326
セグメント利益	54,729	112,426	167,156	167,156	△80,815	86,340

(注) 1. セグメント利益の調整額△80,815千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	グローバル 事業	メディカル 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	628,730	318,641	947,372	947,372	—	947,372
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,224	—	10,224	10,224	△10,224	—
計	638,955	318,641	957,596	957,596	△10,224	947,372
セグメント利益	134,270	136,936	271,207	271,207	△102,436	168,770

(注) 1. セグメント利益の調整額△102,436千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。